

教職員調査【対象：小・中学校教職員】

1. あなたのことについて、教えてください。

質問1 あなたの教職員歴はどのくらいですか。

選 択 肢				
① 5年未満	② 5年以上10年未満	③ 10年以上20年未満	④ 20年以上30年未満	⑤ 30年以上
32.3%	18.5%	28.0%	9.5%	11.6%

【考察】

- 本市の教職員は、約3割が①であり、学校現場の若返りを明確に表していると捉えられる。各校のミドルリーダーとしての④が約1割弱であり、年齢や経験に配慮した人的配置バランスが課題である。

質問2 あなたの勤務校はどちらですか。

選 択 肢	
① 小学校	② 中学校
75.0%	25.0%

質問3 あなたが関心をもっている教育課題はどんなことですか。

選 択 肢	回 答	選 択 肢	回 答
① 学習指導要領の改訂	27.2%	⑫ 主体的・対話的で深い学び	31.5%
② 人口減少・高齢化	6.5%	⑬ 特別の教科道德の導入	6.0%
③ 技術革新、グローバル化	13.8%	⑭ いじめ・不登校問題	24.6%
④ 子供の貧困、地域格差	14.2%	⑮ プログラミング教育	15.9%
⑤ アクティブ・ラーニング	14.7%	⑯ 外国語教育の充実	10.8%
⑥ カリキュラム・マネジメント	5.6%	⑰ 生きる力の育成	20.7%
⑦ 社会に開かれた教育課程	8.6%	⑱ S D G s 教育の推進	3.0%
⑧ 地域と学校の連携・協働	8.2%	⑲ 小中一貫教育の推進	4.7%
⑨ コミュニティ・スクール	2.6%	⑳ 学校における働き方の推進	38.4%
⑩ G I G A スクール構想	13.4%	㉑ その他	3.9%
⑪ 小学校教科担任制	21.6%		

- ・臨時教職員問題 ・特別支援教育 ・特別な支援が必要な子が増えていることについて
 ・教育相談 ・ICT教育

【考察】

- 学習指導要領改訂に伴う①、⑫、⑮や、教職員の勤務の在り方に関わる⑳、さらには今日的課題でもある⑪などに関心が集まっている。本市が全校指定して取組を推進している⑨が非常に低い数値であり、コミュニティ・スクールが目指す方向性が十分に理解されていないものと捉えられる。

質問4 あなたは、現在の職務を遂行するにあたって、どのくらいの忙しさを感じていますか。

選 択 肢	回 答	選 択 肢	回 答
① ほとんど毎日が忙しい	49.1%	④ 忙しい日々はそれほどない	2.2%
② 忙しい日が多い	35.8%	⑤ その他	0.9%
③ どちらも半分程度である	12.1%		

・とにかく忙しい

【考察】

- 教職員の意識として、①、②が約8割を超えている実態に対して、いかに改善していくかが大きな課題である。教職員の健康管理の面からも、具体的な改善方策を教育現場の声を吸い上げながら講じていく必要がある。

質問5 あなたは、仕事をする上で大変と感じていることはどのようなことですか。

選 択 肢	回 答	選 択 肢	回 答
① 保護者やPTAなどへの対応	42.2%	⑦ 授業・授業準備等	26.7%
② 分掌の諸会議や打ち合わせ会	28.9%	⑧ 成績等の処理	26.3%
③ 事務や報告書の作成	65.1%	⑨ 部活動やクラブ活動	8.6%
④ 地域や行政への対応	14.7%	⑩ 生徒指導	19.0%
⑤ 学年や学級経営	16.4%	⑪ 校内研修や出張等の研修	14.7%
⑥ 学校の諸行事	19.0%	⑫ その他	9.9%

・コロナ対応 (5) ・職場の人間関係 (3) ・校長との折衝 ・文章收受・印刷 ・財務事務
 ・勤務時間外の仕事 ・急な業務 ・学校運営。環境整備 ・1年目で慣れていない
 ・デジタルではなくアナログで行うこと

※③と⑩は「事務や報告書の作成」で同じ内容なので合算した。

【考察】

- 教師が対応すべきである⑦、⑤などは当然のことであるが、①が4割を超えていることは見直しを図る必要がある。さらに、③についても働き方改革の視点から見直しをしていく必要がある。

質問6 あなたが、指導力を向上させていく上で必要と考える研修はどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 児童、生徒理解に関する研修	60.3%
② 教科・科目の指導法に関する研修	55.6%
③ 学級・学年経営に関する研修	34.1%
④ ICT活用、プログラミングに関する研修	36.6%
⑤ 外国語教育、国際化に関する研修	17.2%
⑥ 人権・福祉に関する研修	2.2%
⑦ 地域学校協働活動に関する研修	3.4%
⑧ いじめ・不登校に関する研修	26.3%
⑨ 道徳教育に関する研修	13.8%
⑩ インクルーシブ教育に関する研修	10.8%
⑪ キャリア・職業教育に関する研修	6.9%
⑫ 環境、資源、エネルギーに関する研修	0.9%
⑬ 確かな学力の育成に関する研修	17.7%
⑭ アクティブ・ラーニングに関する研修	10.8%
⑮ その他	1.3%

・メンタルヘルス・心の健康の研修 ・ベテラン教師の指導技術 ・日々の実践をおろそかにせず、丁寧に毎日授業を行うこと。

【考察】

- 教師が求める研修として、①、②が約5～6割と高い数値であるが、今日の児童生徒理解や学びの改革に伴う指導法の工夫・改善等についての難しさからと捉えられる。また、④なども今日的な教育課題としてで関心度が高いものであり、しっかりと研修の充実を図った対応が求められる。

質問7 あなたが、これからの教育に特に重要だと思っていることはどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 超スマート社会（Society5.0）に対応した資質・能力に育成	28.9%
② 物事を主体的に判断し、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人材の育成	47.8%
③ 技術革新とグローバルに活躍する人材の育成	15.1%
④ 世界トップレベルの学力の維持	5.6%
⑤ 多様なニーズに対応した教育機会の提供	25.0%
⑥ ICT利活用のための環境整備の促進	34.5%
⑦ 社会の持続的発展のための学びの推進	7.8%
⑧ 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	8.6%
⑨ 学校運営協議会制度と地域学校協働活動の一体的な推進	3.4%
⑩ 地域ぐるみの学校安全体制の整備	6.9%
⑪ 新しい時代の特別支援教育の推進・充実	18.5%
⑫ オンライン学習システムの導入	25.4%
⑬ 「チームとしての学校」の推進	19.0%
⑭ 主体的・対話的で深い学びの実現	27.2%
⑮ いじめ・不登校問題への対応の充実	19.8%
⑯ その他	3.4%
・確かな学力 ・少人数学級の推進 ・行政と学校の連携 ・貧困格差に対応した指導力と教育条件の整備 ・特別支援教育 ・保護者教育 ・学習指導要領や教育政策について学校評価を公開し改善を図る。	

【考察】

- 予測不可能な時代を生きる上で、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力として②、①、⑤、⑥などが約2割から5割近い数値になっている点は頷けるものである。また、⑭は、そのための学び方として重要な取組と捉えられる。一方、⑨、⑩などの、地域と協働した学校の在り方についての関心度の低さが気になるところである。

2. 和光市のこれからの学校教育について、教えてください。

質問8 あなたが、これからの和光市の学校教育が力を入れていく必要があると思われる取組はどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 学びの質を高める指導力の工夫・改善	69.0%
② ICTを活用した教育の推進	62.9%
③ 幼・保・小・中学校間の交流活動の推進	18.5%
④ 学校・家庭・地域の連携・協働活動の推進	35.3%
⑤ 小・中学校一貫教育の推進	15.9%
⑥ 豊かな心を育む道徳教育の推進・充実	31.0%
⑦ 英語教育や国際理解教育等を重視した教育の推進	23.3%
⑧ 自然環境を生かした環境教育の推進・充実	10.3%
⑨ 望ましい職業観や勤労観を育む教育の推進	19.4%
⑩ いじめ防止に向けた取組の充実	34.9%
⑪ 障害のある児童生徒への支援の充実	30.6%
⑫ スポーツや芸術・文化活動の充実	16.8%
⑬ プログラミング教育の推進・充実	22.0%
⑭ 地域の多様な人材の効果的な活用・促進	21.6%
⑮ 市の歴史や文化財等を活用した教育の推進	12.9%
⑯ ユニバーサルデザインを取り入れた教育活動の充実	25.4%
⑰ その他	6.0%
・豊かな心を育む体験活動 ・施設、設備の改修（新設） ・教職員の働き方改革 ・教育の根幹は人（現場の声が行政に届くシステムの構築） ・貧困格差に対応した指導力向上と教育条件整備 ・不安な状況における生徒指導力の向上 ・学級経営力の向上 ・家庭間格差是正のための生活支援教育 ・学校営繕、学習環境整備全般 ・国語の読解力はすべての学習の基盤なので和光の教育の基本にしたい ・理研との連携	

【考察】

- 新しい教育課程の実施が進められる中で、①、②が約6・7割と高くなっており、教育現場の課題を反映しているものと捉えられる。その他は、従来から取り組まれてきているものであることからほぼ同様な数値になっている。

質問9 あなたが、学校運営において必要と思われる取組はどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 教職員研修の機会を充実し、指導力の向上を図る	42.7%
② 小中一貫教育の取組を推進する	6.5%
③ 一学級当たりの児童生徒数を減らす少人数学級の実現を図る	71.6%
④ 地域等での体験活動やボランティア活動の充実を図る	11.6%
⑤ 優れた教育実践をする教職員の優遇制度を導入する	11.6%
⑥ 授業のサポートをする教育支援員等の人材を増員する	61.6%
⑦ 習熟度別の授業を増やし、個に応じた指導の充実を図る	28.4%
⑧ オンライン等の情報機器を活用した教育に充実を図る	22.8%
⑨ コミュニティ・スクールの円滑な推進のための学校運営協議会制度の充実を図る	6.5%
⑩ 豊かな道徳性の育成のために、特別の教科「道徳」の充実を図る	10.3%
⑪ 学力向上のため放課後や土曜日、夏季休業などに補習授業を行う	4.7%
⑫ 児童生徒との結びつきやふれあいの時間が取れるようにする	34.1%
⑬ 放課後の事務処理等の時間を適切に確保する	48.3%
⑭ 校務分掌等の精選を図り、効率的な組織にする	34.5%
⑮ 学年会や教科等部会の充実を図り、カリキュラム・マネジメントを推進する	9.1%
⑯ 新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・評価を適切に管理する	9.9%
⑰ 教職員の縦横のつながりによる「チーム学校」の推進を図る	21.6%
⑱ 働き方改革を推進していく上で、教職員の共通理解を図る	40.1%
⑲ その他	4.3%
・ICT活用のための整備を整える(2) ・補助や支援をしてくれる教員増 ・教職員の縦横のつながりによる「チーム和光」の推進 ・教職員の負担軽減による教員以外の職員の負担 ・必要感の低い調査や大会、コンテストの廃止	

【考察】

- 学校運営上において、③、⑥は約6～7割と高い数値になっており、コロナ禍にあって教育現場の切実な思いの表れと捉えられる。③、⑱も約4～5割を示しており、教職員の働き方改革の具体的な方策が求められている。

3. 学習指導について、教えてください。

質問10 あなたが、日常の学習指導において重視していることはどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 基礎的な知識・技能の定着を図る指導	78.9%
② 児童生徒のつまづきを捉えた個に応じた指導	62.9%
③ コンピュータ、電子黒板を活用した指導	31.9%
④ グループ活動を生かした協働活動	35.8%
⑤ 学習に主体的に取り組む課題解決型の指導	50.9%
⑥ 学習内容の確実な習得を目指した反復学習を取り入れた指導	38.8%
⑦ 学習意欲を高める発展的な学習を取り入れた指導	27.6%
⑧ 豊かな学びを創る体験型の指導	32.8%
⑨ 学習や技能の到達目標を明確にした指導	24.1%
⑩ 宿題等の課題提示による家庭学習充実のための指導	14.7%
⑪ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す指導	50.0%
⑫ 自立の心を育む道徳教育の指導	23.3%
⑬ グローバル化の進展に対応した指導	3.4%
⑭ その他	2.2%
・安全でベストが尽くせる環境づくり ・導入の工夫 ・学習指導に関わっていない(2)	

【考察】

- 学習指導における配慮事項として、①、②が約6～8割の数値になっており、指導上の基本的なことであるとも捉えられる。⑤、⑪も約5割であり、これは新学習指導要領に基づく学び方改革に結びつくものである。

質問11 あなたが、児童生徒に身に付けさせたい力はどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 各教科の基礎的な学力	66.4%
② 外国語を活用したコミュニケーション力	9.9%
③ 体力や運動能力の向上	30.6%
④ 健康や安全について自己管理できる力	28.0%
⑤ 音楽や美術などの芸術に係る感性と能力	9.1%
⑥ 自己肯定感を高め、将来について考えられる力	65.1%
⑦ 物事を計画的に行う実行力や解決する力	22.8%
⑧ 常に工夫改善を図り、新しいことを創造する力	16.8%
⑨ 自分の考えを表現できる力	54.7%
⑩ 目標を持って学ぼうとする力	20.7%
⑪ 社会生活を営む上で善悪を判断できる力	14.2%
⑫ 友達や周りの人と関わりができるコミュニケーション力	43.5%
⑬ いじめや差別をしない公平・公正な態度	21.1%
⑭ 自分のふるさとを愛する心	2.2%
⑮ 基本的な生活習慣	28.4%
⑯ 言葉遣いや礼儀作法	19.0%
⑰ 携帯・スマートフォンの利用に係る情報モラル	7.8%
⑱ 我が国や郷土の伝統や風習などを理解し受容する心	1.7%
⑲ 社会生活を営んでいく上で必要な常識や公共心	13.4%
⑳ 自分の生き方を考え、今を大切に努力する態度	18.1%

【考察】

- 児童生徒に身に付けさせたい力として、①、⑥、⑨は、約5～6割を超える数値になっているが、これからの時代を生き抜いていく上で必要な力である。特に、本市の児童生徒にみられる自己肯定感の低さを改善していくためにも、⑨、⑩、⑫などの取組の充実を図っていく必要がある。

4. 家庭や地域社会の教育のことについて、教えてください。

質問12 あなたが、児童生徒の生活について課題と思うことはどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 規則正しい習慣や生活リズムができていない	33.2%
② 遅刻など時間にルーズである	7.3%
③ 自分の身の回りのことができない	23.3%
④ 周りの友達との交流（対人関係）ができない	37.5%
⑤ 授業内容に対する理解ができない	10.8%
⑥ 自己表現が乏しく肯定感が低い	44.8%
⑦ 物事を計画的に実行する力や解決力が足りない	17.2%
⑧ 自分の考えや意見を表現できない	46.6%
⑨ 物事の善悪を判断する力が不足している	18.1%
⑩ 場に応じた言葉遣いや礼儀作法ができない	22.8%
⑪ 健康の保持や心の安定に対する配慮が不足している	11.2%
⑫ 塾、習い事中心の生活になっている	12.5%
⑬ 部活動中心の生活になっている	0.9%
⑭ 特に問題を感じない	3.0%

【考察】

- 質問11との関連からも捉えられるように、④、⑧が約4割を超える課題として挙げられている。これからの社会にあっては、これらの課題改善は重要な視点でもあり、具体的な方策に基づいた取組を進めていく必要がある。

質問13 あなたは、学校が行う家庭への支援としてどんなことを考えますか。

選 択 肢	回 答
① 学校のHPや学校だより、学年・学級だより等で教育活動を紹介する	61.2%
② 児童生徒の望ましい生活習慣の構築のために、啓発資料を作成し提供する	19.0%
③ 保護者が相談したいことがあったら、いつでも相談に応じる	65.5%
④ 学習の進度などを定期的に知らせる	12.9%
⑤ 欠席した児童生徒に対し、その日のうちに様子や伝える内容を知らせる	35.8%
⑥ その他	3.4%
・多様な家族の在り方の需要 ・欠席時でも学べるオンライン対応環境の整備 ・家庭訪問は貴重な児童理解なので時間を確保したい ・保護者が安心できるような子供たちの学校生活 ・保護者の疑問に答えるの当然と思うが、現場の教師にその体力があるかは疑問	

【考察】

- 家庭への支援策として、③、①が約6割を超えており、学校の様子を適宜・適切に知らせるとともに、教育相談を通して学校・家庭の連携を図ることが重要であると捉えられる。

質問14 あなたは、家庭の取組としてどんなことが大切と考えますか

選 択 肢	回 答
① 児童生徒の食生活に注意・関心をもってほしい	25.0%
② しつけや教育の方法について理解・関心をもってほしい	41.8%
③ 児童生徒の発達段階に即した対応をしてほしい	31.5%
④ 親子のコミュニケーションの機会を増やしてほしい	60.3%
⑤ 児童生徒に様々な体験の機会を増やしてほしい	21.6%
⑥ できるだけいろいろな人と接する機会を増やしてほしい	13.4%
⑦ 携帯電話やスマートフォンの使用ルールをしっかりと付けてほしい	42.7%
⑧ 児童生徒の帰宅時間（門限）等を決めてほしい	1.3%
⑨ 極度に甘やかしたり、干渉しないようにしてほしい	32.8%
⑩ あまり勉強のみに偏らないようバランスを大切にしてほしい	10.3%
⑪ 児童生徒の言い分をしっかりと聞いてあげてほしい	16.8%
⑫ その他	0.9%
・自分の家族に誇りを持てるようになる営み	

【考察】

- 家庭に対して、④が約6割であることから、親の関わりが必要であること、また、②、⑦が約4割を示しており、この点からも家庭教育における親の果たすべき役割の大切さが捉えられる

質問15 あなたが、地域社会に期待することはどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① 世代間の交流が図れる機会をつくる	30.6%
② 隣近所のコミュニケーションの機会を増やす	32.3%
③ 自治会やPTAなど地域活動を活性化する	11.2%
④ 地域の諸団体が地域学校協働活動に参画する	12.9%
⑤ 地域に居住する児童生徒に関心をもつ	37.9%
⑥ 地域が一体となって挨拶運動などの活動を行う	15.9%
⑦ 児童生徒は地域で育てるといった意識をもつ	59.1%
⑧ 地域の大人が児童生徒の見本となるような行動をする	52.2%
⑨ 地域の伝統文化を児童生徒に継承する機会をつくる	17.2%
⑩ 地域の大人たちとの交流ができる機会をつくる	22.8%
⑪ その他	1.7%
・コミュニティ構築は必須と考えるが、窓口となる管理職が忙しく負担 ・同じ地域で暮らす人を知る ・なんでも学校に解決してもらおうという事の改善	

【考察】

- 地域コミュニティの形成が困難になっているが、⑦、⑧が約5・6割であることから、児童生徒の健全育成に地域の果たす役割の大きさを捉えることができる。地域学校協働活動の円滑な運営を推進していくことで、これらの課題解決に結びつく取組が必要である。

質問16 あなたが、学校教育を推進する上で保護者や地域住民に協力してほしいと思うことはどんなことですか。

選 択 肢	回 答
① P T A ・保護者会などの活動	22.0%
② 児童生徒の登下校の見守り活動	57.3%
③ 授業の補助や放課後指導の充実	24.6%
④ 校内美化活動などの環境整備	40.5%
⑤ 学校図書館支援や読み聞かせ	15.9%
⑥ 部活動の指導や協力	14.2%
⑦ 非行防止や生徒指導への協力	22.0%
⑧ 地域防犯活動への協力	28.4%
⑨ 自然災害時の児童生徒の安全への協力	29.7%
⑩ 学校公開や授業参観等への参加	13.4%
⑪ 学校行事等への参加、協力	25.0%
⑫ その他	1.3%
・職員の努力を理解してほしい ・校外の生徒の行動に関する苦情は負担、学校外に窓口をつくれないか	

【考察】

- 地域住民の学校への関わりとして、②、④が約4～6割近い数値になっており、従来から取り組まれてきているものでもあるが、連携しやすい活動として捉えることができる。その他は、ほぼ同様の数値になっている。

質問17 あなたは、学校図書館の充実のためにどんな取組が必要と考えますか。

選 択 肢	回 答
① 学校司書や司書教諭の配置の充実	56.9%
② 図書館ボランティアの充実	33.6%
③ 学校図書館の施設環境の整備	61.6%
④ 学校図書館利活用のための研修の充実	12.9%
⑤ 市立図書館との連携の充実	31.5%
⑥ 蔵書数の充実	41.8%
⑦ 地域図書館としての機能の充実	9.9%
⑧ 読書活動を推進する取組の充実	39.7%
⑨ その他	3.9%
・利用のための時間の確保 ・学校図書館が学校施設の中心的な位置にあること ・諸外国のように選任の司書を配置する ・図書館の放課後の開放、学習の場や安全な場所の提供等	

【考察】

- 学校図書館を充実していくために、⑥、③、①の取組が約4～6割を占めていることは、それぞれの学校図書館が抱える課題とも捉えられる。⑦の数値が約1割程度であり、地域図書館と学校図書館の連携の在り方を工夫していく必要がある。